

2018年3月期決算および 「中期経営計画2020」説明資料

2018年4月25日
メタウォーター株式会社

I 2018年3月期決算概要
2019年3月期通期業績・配当予想

II 前中期経営計画(2016/3期～2018/3期)の総括

III 「中期経営計画2020」(2019/3期～2021/3期)の概要

<セグメント情報>

□プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業)

当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。

□サービスソリューション事業(略語:SS事業)

当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転、維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<略語>

EPC	Engineering, Procurement and Construction: 設計・建設
O&M	Operation and Maintenance: 運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership(公民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

I 2018年3月期決算概要 2019年3月期通期業績・配当予想

II 前中期経営計画(2016/3期～2018/3期)の総括

III 「中期経営計画2020」(2019/3期～2021/3期)の概要

'18/3期決算ハイライト(連結)

* 受注高

前期に受注を予想していたPPP案件の当期へのずれ込みと大型案件の受注により、前期実績を大幅に上回り、過去最高を更新

受注残高も増加傾向を継続し、**過去最高** (参考)'17/3期末1,152億円→'18/3期末1,359億円

* 売上高・利益

PPP案件など長納期案件の増加、一部案件の売上計上の時期遅れなどにより、売上高は微減となるも、コストダウンなどによる粗利率の改善により、**営業利益は増益**

当期純利益については、円高による為替差損や前期に生じた米国子会社の税効果などがなくなり減益
ただし、**米国子会社の現地通貨ベースでの業績は順調に推移**

* 配当

安定配当の方針に基づき、年間58円(中間29円、期末29円)^{*1}を継続。

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益 ^{*2}	配当(円)
2018/3期実績	1,316 予想比: +66 前期比: +120	1,109 予想比: ▲41 前期比: ▲8	67 予想比: +2 前期比: +4	65 予想比: +1 前期比: +2	39 予想比: ▲3 前期比: ▲8	58 ^{*1}
2018/3期予想	1,250	1,150	65	64	42	58
2017/3期実績	1,196	1,117	63	63	47	58

*1 期末配当29円は5月決議予定

*2 親会社株主に帰属する当期純利益

【国内】

- * 工事受注: **10億円規模以上16件**(総計 362億円と高水準を維持)(前期18件 総計350億円)
うち**PPP 案件は3件**、通算では上下水道分野**62件**(当社調べ) **中 30件**に参画
5億円以上10億円未満13件(総計95億円)(前期13件 総計85億円)
- * 工事完了: **受注高10億円規模以上10件**(前期13件)
- * 運転・維持管理 新規受託: **4件**
- * 運転・維持管理 業務開始: **7件**(PPP案件1件、新規受託案件3件を含む)

【海外】

- * 受注
 - ・中国: 浄水場向けオゾン発生システム

具体的な案件名については巻末の補足資料をご参照ください

- * 国際航業株式会社、管清工業株式会社と共同で、下水道管路の点検・維持管理業務を支援するクラウドサービスの提供を開始(2Q)
- * 古野電気と小型Xバンド 二重偏波ドップラ気象レーダ(平成27年度B-DASH* 実証事業で使用)の販売契約を締結(2Q)
- * 水・環境インフラ施設向け「設備運転員訓練センター」を開設(3Q)
- * 東亜ディーケーケー株式会社に水道用水質計事業を譲渡(4Q)
- * 株式会社スカイシーカーの第三者割当増資を引き受け(4Q)

*B-DASH(Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project)国土交通省が実施する下水道革新的技術実証事業

- * 「微粉炭-高塩基度凝集剤-膜分離浄水システムの開発」が平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞(1Q)
- * 「最終沈殿池処理能力向上技術実証研究」が平成29年度B-DASH実証事業に採択(1Q)
- * 「浮上ろ材を用いた合流改善高速ろ過技術」が公益社団法人日本水環境学会技術賞を受賞(1Q)
- * 「金町浄水場統合監視制御設備設置工事」が平成29年度 東京都水道局優良請負工事(局長表彰)を受賞(2Q)
- * 当社社員が平成29年度東京都功労者表彰「労働精励」を受賞(3Q)

- * エコプロに下水道広報プラットフォームと共同出展(3Q)
- * 東京都水道局「みんなでつくる水源の森実施計画」企業協賛金に協賛(3Q)
- * アンコールワット国際ハーフマラソンに協賛(3Q)
- * 社員向けサテライトスペース「アイランド」(名称は社内公募で決定)を本社に設置(4Q)
- * 横浜市水道局との「水源エコプロジェクト【W-eco・p(ウィコップ)】」協定を更新(4Q)

連結損益計算書('18/3期業績)

(億円)

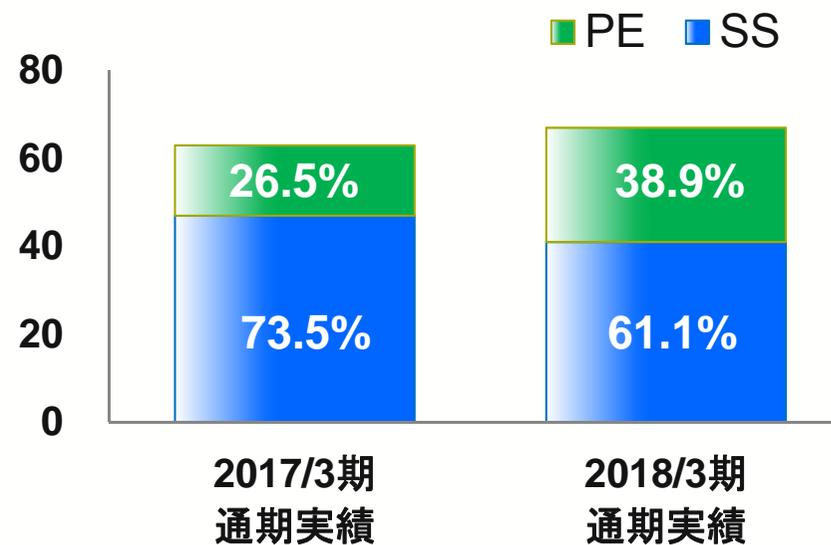
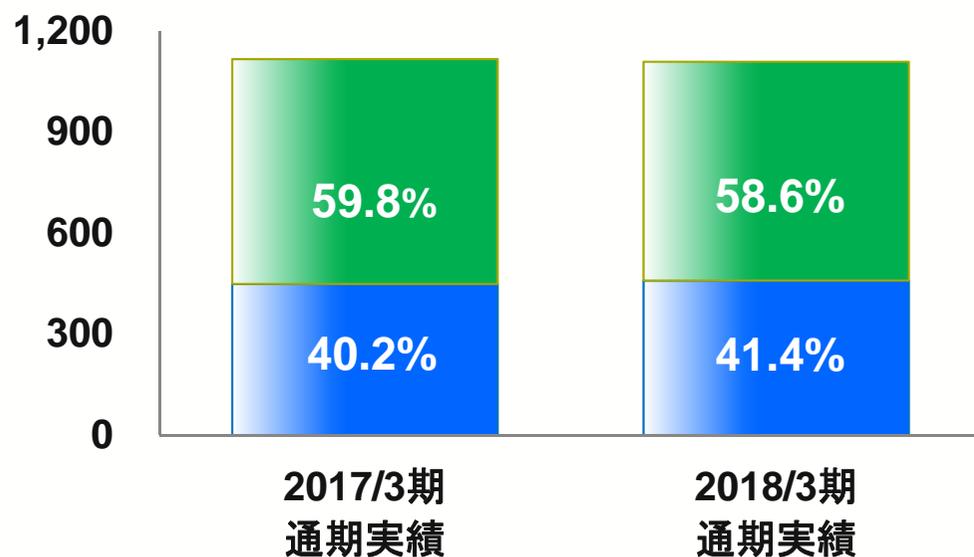
	2017/3期 通期実績	2018/3期 通期実績	増 減
売 上 高	1,117	1,109	▲8
営 業 利 益	63	67	+4
(営 業 利 益 率)	5.7%	6.1%	+0.4%
経 常 利 益	63	65	+2
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	47	39	▲8

* 10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

(億円)

	売上高		
	2017/3期 通期実績	2018/3期 通期実績	増 減
PE	668	650	▲18
SS	449	459	+10
合計	1,117	1,109	▲8

	営業利益		
	2017/3期 通期実績	2018/3期 通期実績	増 減
PE	17	26	+9
SS	47	41	▲5
合計	63	67	+4



連結貸借対照表

(億円)

	2017/3期 期末実績	2018/3期 期末実績	増 減
現金・預金	242	258	+16
売上債権	679	722	+42
棚卸資産	72	59	▲13
繰延税金資産	16	15	▲1
その他	26	15	▲11
流動資産計	1,036	1,069	+33
有形固定資産	31	30	▲1
無形固定資産	82	71	▲11
その他	62	61	▲1
固定資産計	174	161	▲13
総資産計	1,210	1,230	+20

	2017/3期 期末実績	2018/3期 期末実績	増 減
買入債務	308	299	▲9
短期借入金 ^{*1}	(8) 11	(8) 11	▲0
前受金	87	107	+20
その他	80	73	▲6
流動負債計	485	490	+5
長期借入金 ^{*2}	(124) 148	(116) 136	▲12
その他	54	53	▲0
固定負債計	202	189	▲13
負債計	687	679	▲8
純資産計	523	550	+28
負債・純資産合計	1,210	1,230	+20

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	2017/3期 通期実績	2018/3期 通期実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	200	234	+34
営業キャッシュ・フロー	78	52	▲26
投資キャッシュ・フロー	-15	-9	+7
フリー・キャッシュ・フロー	62	43	▲19
財務キャッシュ・フロー	-27	-26	+1
現金・現金同等物に係る 換算差額	-2	-1	+1
現金・現金同等物の期末残高	234	250	+16

研究開発費・設備投資・減価償却費

(億円)

	2017/3期 通期実績	2018/3期 通期実績	増減
研 究 開 発 費	16	17	+1
設 備 投 資	7	7	+0
減 価 償 却 費	11	14	+3

'19/3期業績予想(連結)

(億円)

	2018/3期 通期実績	2019/3期 通期予想	増減
売上高	1,109	1,200	+91
営業利益	67	70	+3
(営業利益率)	6.1%	5.8%	▲0.3%
経常利益	65	69	+4
親会社株主に帰属する 当期純利益	39	47	+8
受注高	1,316	1,200	▲116

年間配当(円)	58円	62円	+4円
---------	-----	-----	-----

I 2018年3月期決算概要
2019年3月期通期業績・配当予想

II 前中期経営計画(2016/3期～2018/3期)の総括

III 「中期経営計画2020」(2019/3期～2021/3期)の概要

市況・環境変化

- 施設の老朽化・災害対策に対する財源不足、技術者不足
- 人手不足による土木・建築工事の遅れ(機械・電気設備工事にも影響)
- 案件の大型化(PFI/DBO/DB)による長納期化
- 新たな民間活用(コンセッション)の進展

当社の主な取り組み

- PPP事業の進展(3事業年度で15件中11件に参画)
 - 「あらおウォーターサービス(株)」(当社が代表企業)が
荒尾市より「荒尾市水道事業等包括委託」を受託(2016年4月業務開始)
 - 「(株)北九州ウォーターサービス」への参画(2016年4月業務開始)
 - 「設備運転員訓練センター」(2017年11月設置)
- 国土交通省 下水道革新的技術実証事業(B-DASH)への参画
 - 平成27年度「都市域における局所的集中豪雨に対する雨水管理技術実証事業」
→ 平成28年度に福井市、富山市で実証設備が稼働
 - 平成29年度「最終沈澱池の処理能力向上技術実証事業」

市況・環境変化

- 北米: 施設老朽化、水資源の確保、環境規制厳格化とインフラへの投資拡大
- 欧州: 施設老朽化、民間委託(コンセッションなど)が進化
- その他地域: 上下水道施設の普及率向上、中国・韓国企業などの進出

当社の主な取り組み

- * 北米: Aqua-Aerobic Systems, Inc.(AAS社)の完全子会社化(2016年1月)
→ 2016/3期よりAAS社を連結開始
- * 欧州: PWNT B.V.(PWNT社)、Rood Wit Blauw Holding B.V.(RWB社)との協業を推進
→ PWNT社のCeraMac®システムがシンガポール初のセラミック膜ろ過浄水場に採用(2015年11月)
- * その他地域: ホイアン市の下水処理場をODAで受託(2016年12月)
(日本下水道事業団による「海外向け技術確認」を受けた技術の導入)
ミャンマーで車載式セラミック膜ろ過装置を受託(2017年2月)

前中期経営計画の振り返り 成果と課題

前中期経営計画(2018/3期)の数値目標は未達

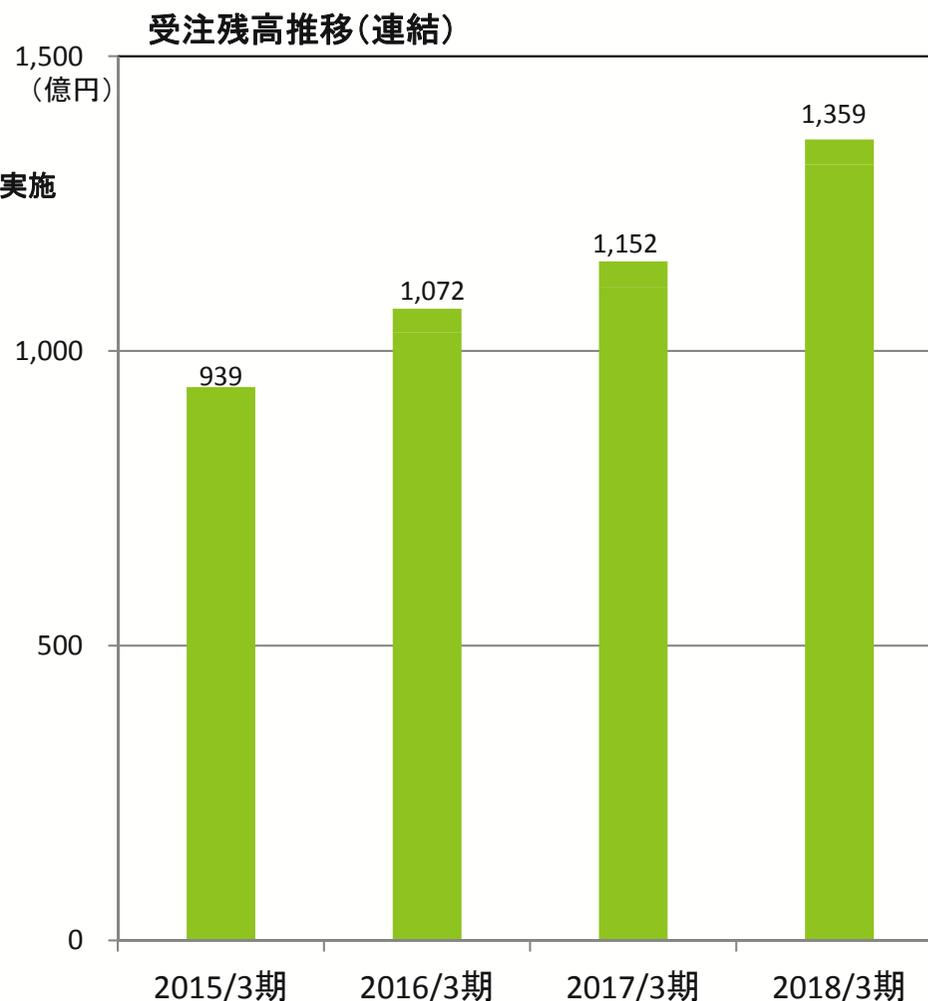
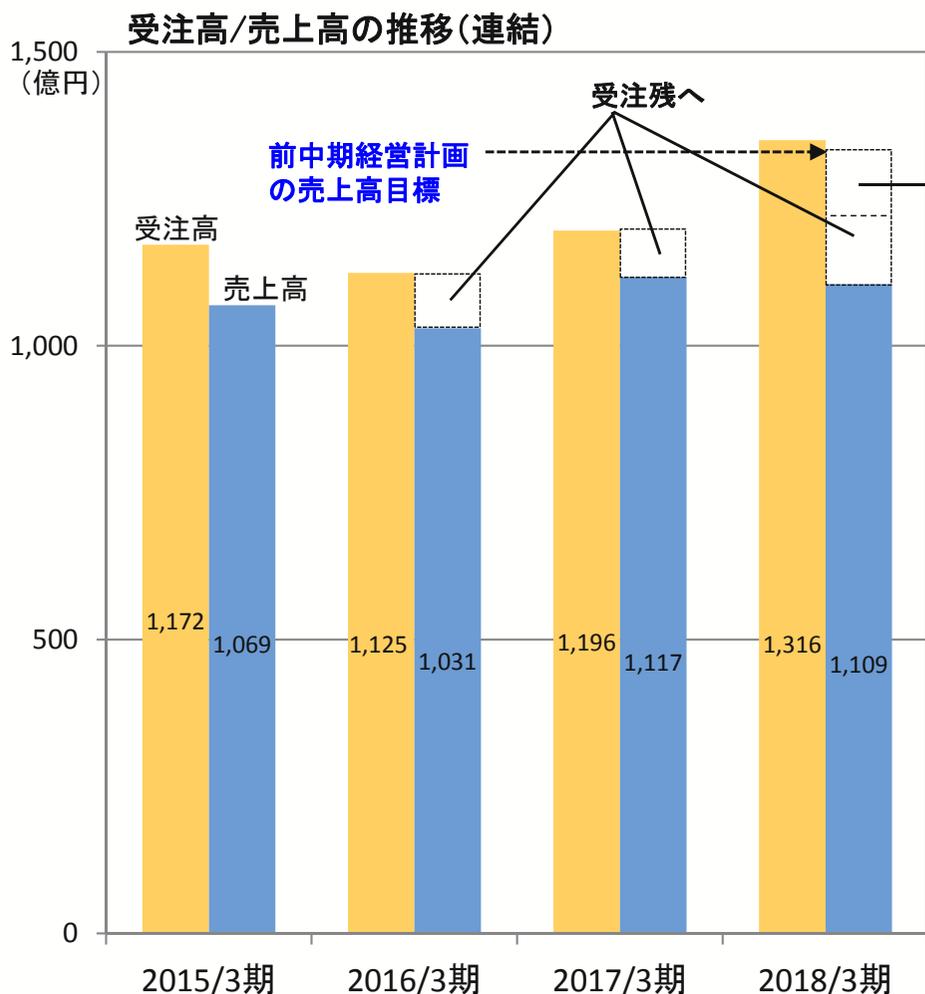
ただし、受注高は過去最高を更新し、**中長期的成長に向けた基盤づくりが進展**

(単位:億円)

(連結)	2016/3期 実績	2017/3期 実績	2018/3期 実績	2018/3期 目標	増減
受注高	1,125	1,196	1,316	1,400	▲84
売上高	1,031	1,117	1,109	1,300	▲191
営業利益 (営業利益率)	54 (5.2%)	63 (5.7%)	67 (6.1%)	100 (7.7%)	▲33 (▲1.7%)
当期純利益	28	47	39	60	▲21
ROE	5.8%	9.5 %	7.3%	10.0 %	▲2.7%

前中期経営計画の振り返り 未達理由

M&A未実施、PPP案件など長納期案件の増加、一部案件の売上計上の時期遅れなどにより売上高は未達となり、収益性が低下。ただし、**受注残高は積み上がり、過去最高**



I 2018年3月期決算概要
2019年3月期通期業績・配当予想

II 前中期経営計画(2016/3期～2018/3期)の総括

III 「中期経営計画2020」(2019/3期～2021/3期)の概要

「中期経営計画2020」

前中期経営計画で目指した水準に再チャレンジ

最終年度(2021/3期)に過去最高の連結営業利益90億円を目指す

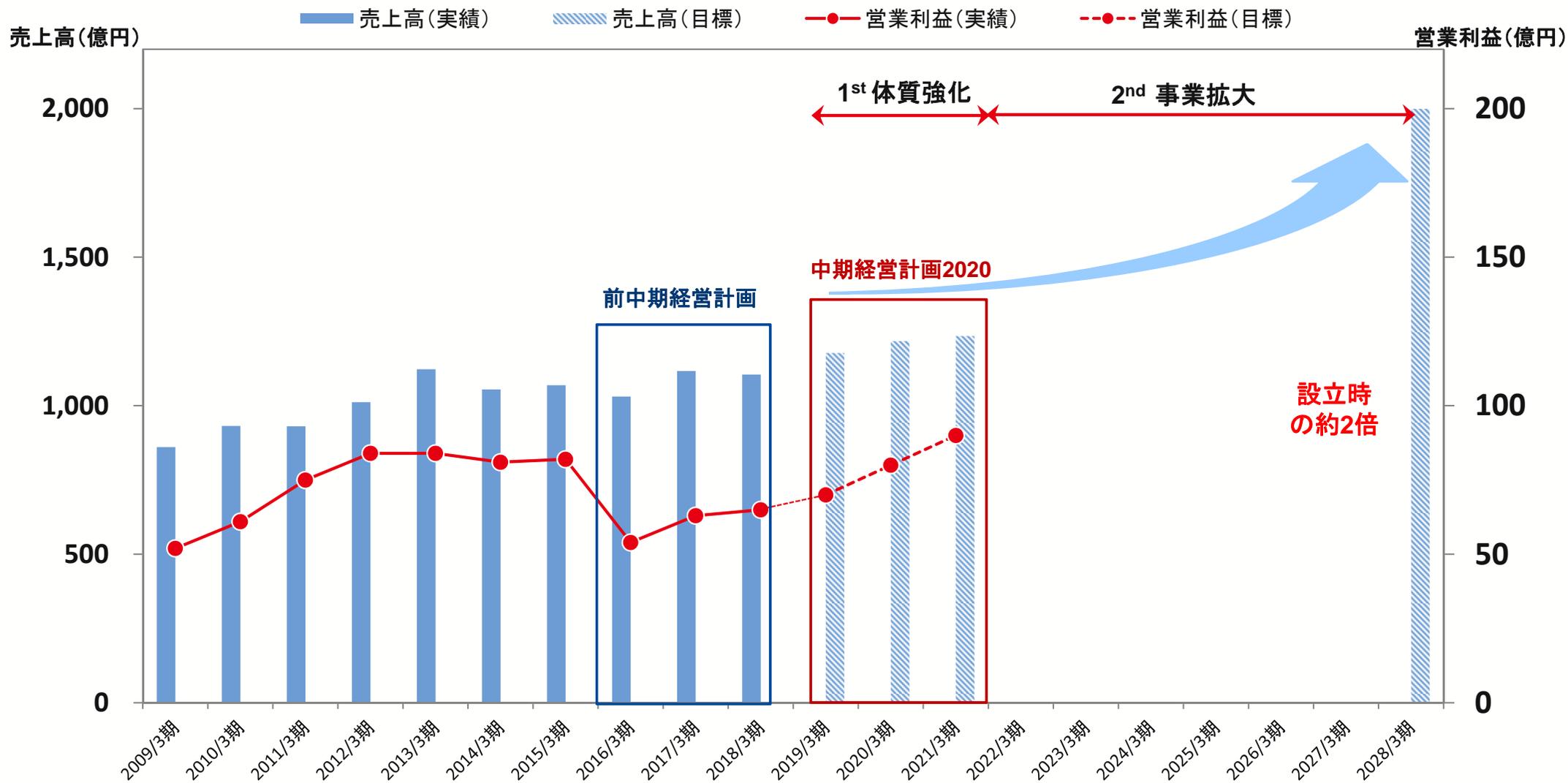
(億円)

(連結)	2018/3期 実績	2021/3期 目標	増減
受注高	1,316	1,400	+84
売上高	1,109	1,280	+171
営業利益	67	90	+23
当期純利益	39	62	+23

2021/3期目標にはM&Aを実施した場合の効果は含まず

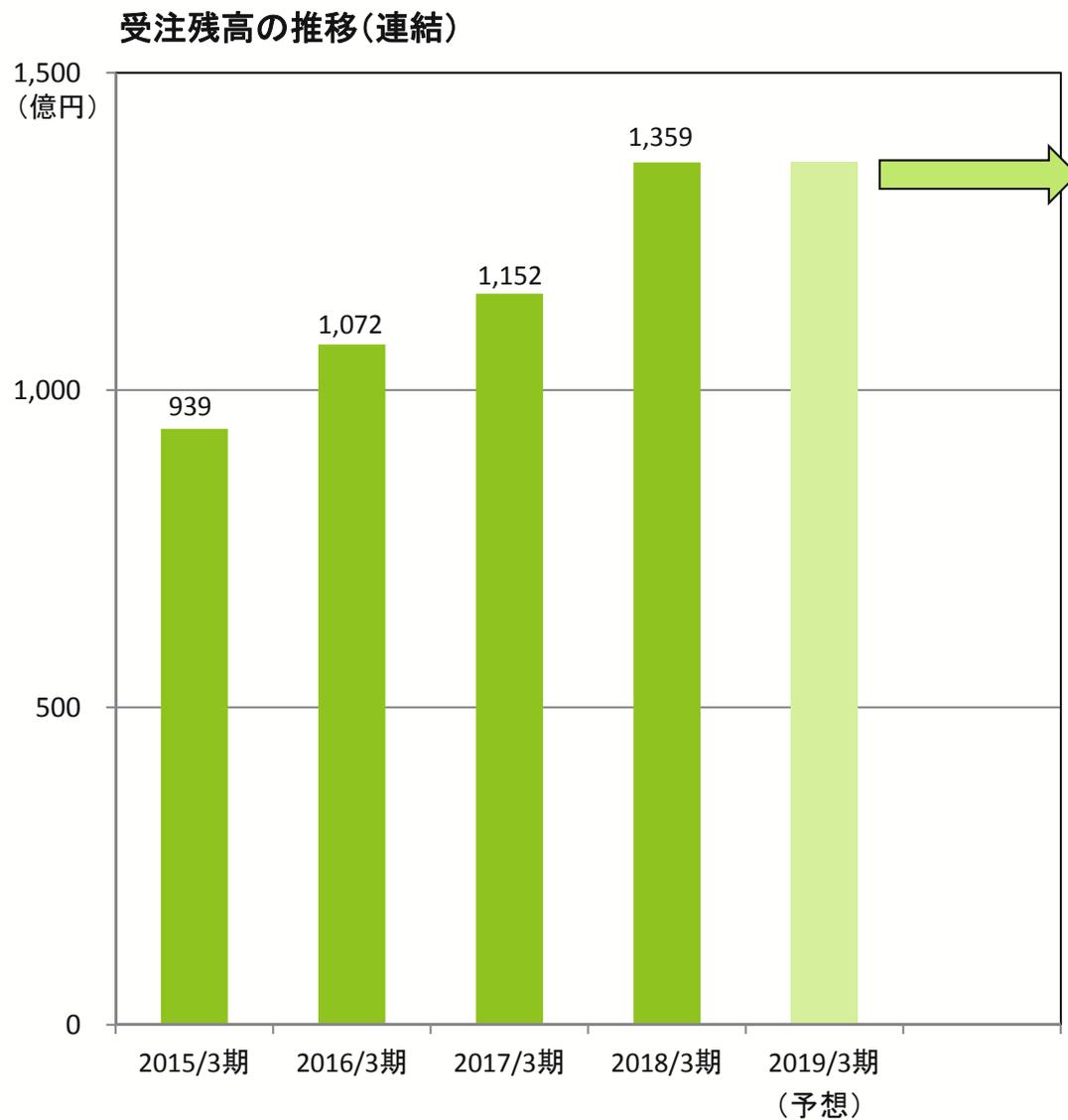
「中期経営計画2020」の位置づけ

長期ビジョン(10年後の姿)実現に向けた**企業体質強化の3年間**と位置付け



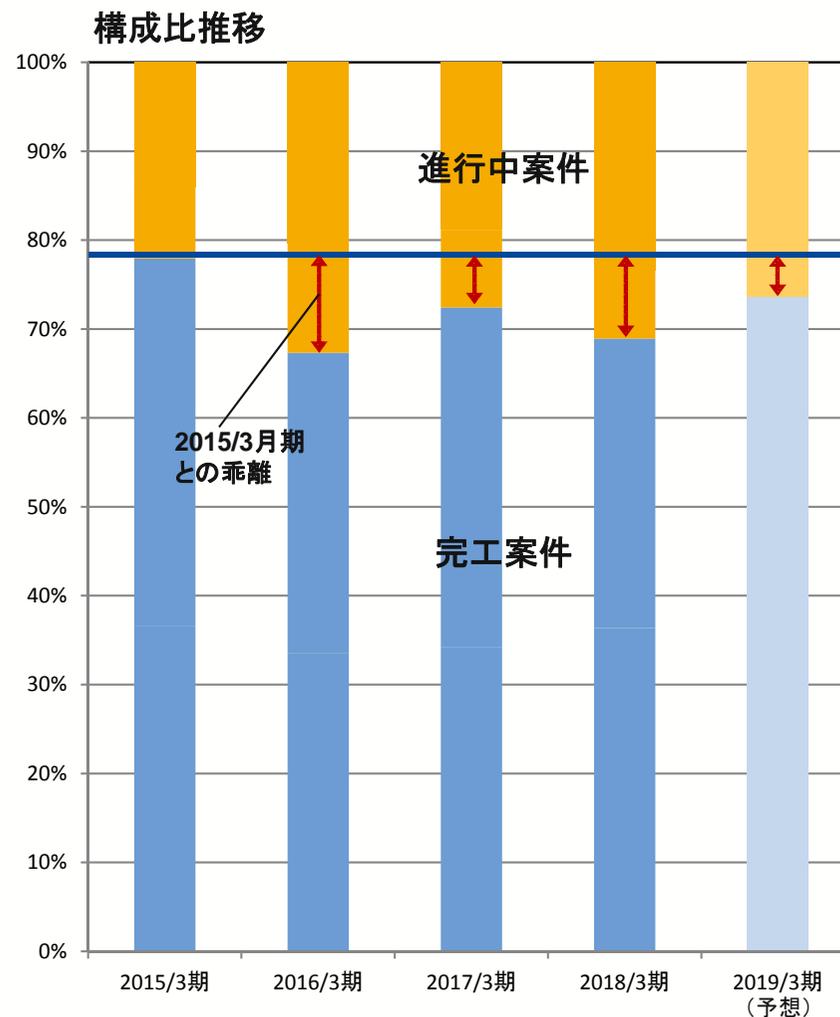
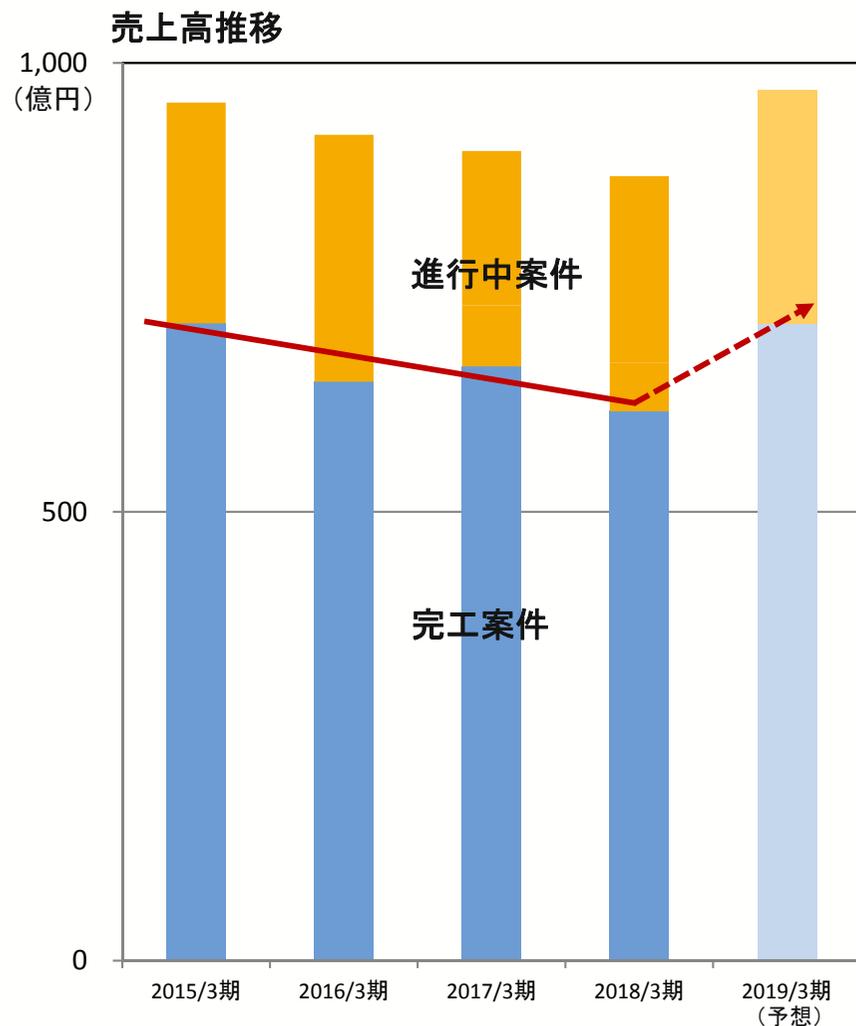
*2011/3期までは当社単体の売上高及び営業利益、2012/3期より連結による売上高、営業利益を示す

受注残高は高水準を持続し、今後売上高の増加が見込まれる



売上高に占める完工案件の割合（単体）

2019/3期以降、受注済みの長納期案件が売上貢献する時期に入り、**収益性の高い工事完了案件が増加するため、全社業績は回復する見込み**

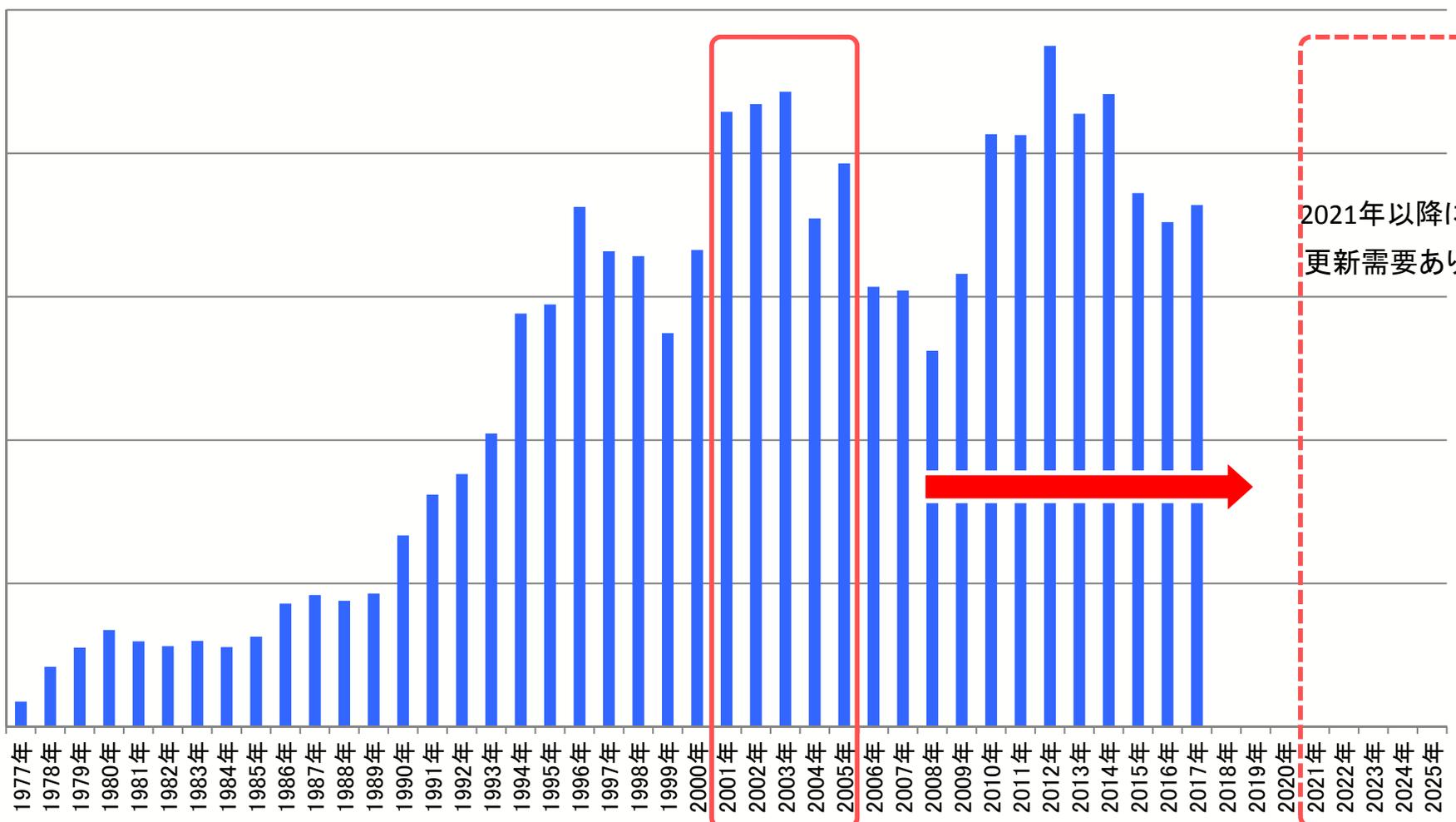


当社主要システムの納入実績と今後の見通し

2000年以降に納入した**主要システムの更新需要**が2021年以降に到来

■ 納入実績(機械設備)

受注金額総計

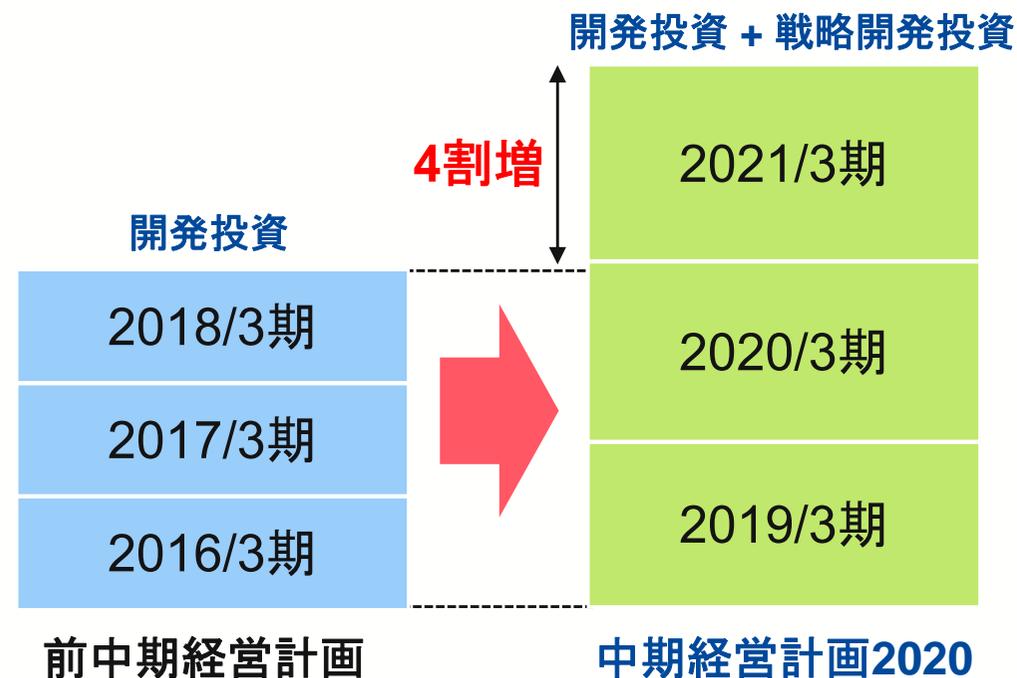


2021年以降に
更新需要あり

* 当社調べ(当社主要システムの国内納入実績推移)

包括化案件を中心とする長納期案件の増加、コンセッションに代表される広域化案件の台頭など、今後の10年間における大きな環境変化を先取りし、長期ビジョンを実現しうる企業体質を確立するため、**従来の開発投資に「戦略開発投資」を加え、3事業年度で前中期経営計画比4割増の総額70～80億円を投じる**

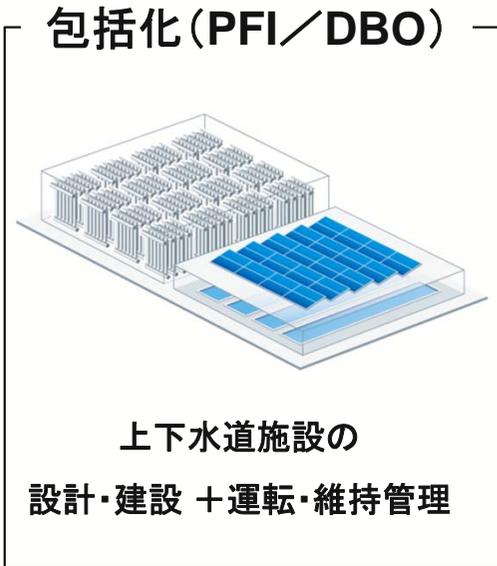
前中期経営計画との比較



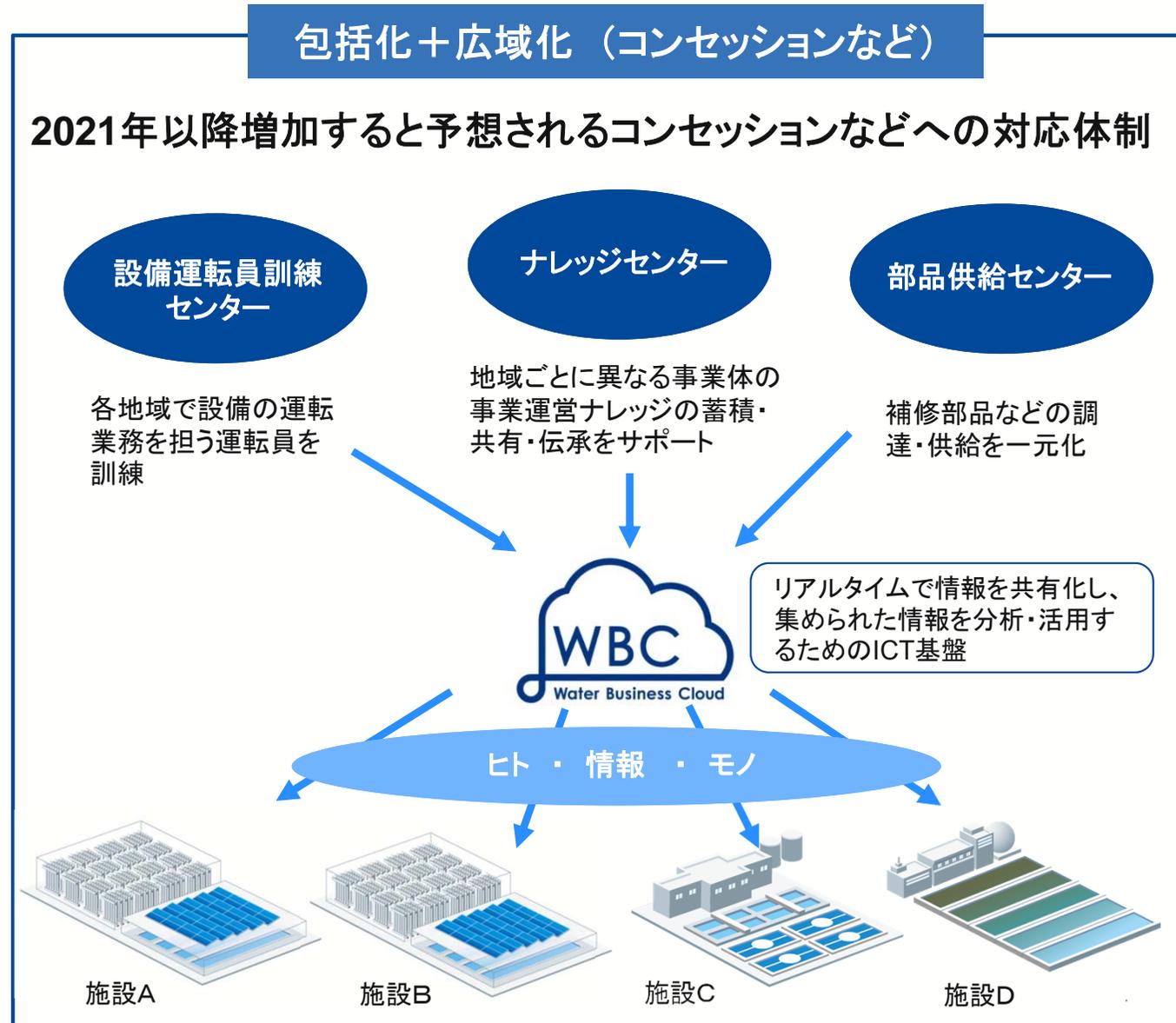
具体的テーマ

- (1) 「広域化+包括化」に対応するマスメリット経営体制の推進
- (2) AI・ICTなどの最先端技術の取り込みによる建設コストの低減、維持管理の効率化、安全性の向上
- (3) ナンバーワン製品(水滴型製品)群の開発および新事業の開発
- (4) 働き方改革による付加価値の創造

「広域化+包括化」に対応するマスメリット経営(スケールメリットを生かした経営)体制の推進



(目標)
運営費3割減

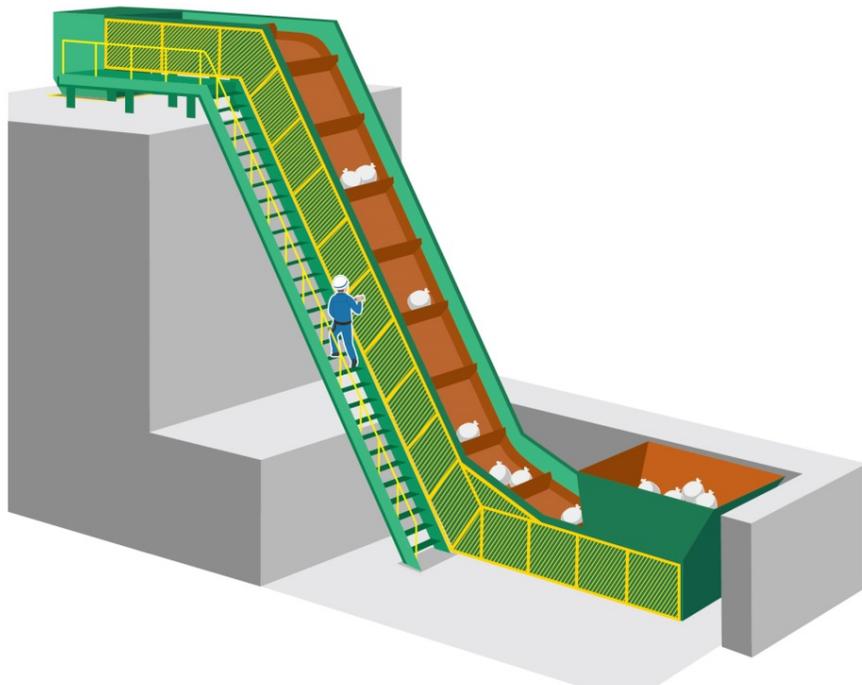


AI・ICTなどの最先端技術の取り込み

効果: ①建設コストの低減 ②維持管理の効率化 ③安全性の向上 ④災害時の対応

ドローンの導入事例

導入前



作業員による高所での点検作業が**必要**
点検用階段および危険防止用カバーが**必要**

導入後



作業員による高所での点検作業が**不要**
点検用階段および危険防止用カバーが**不要**

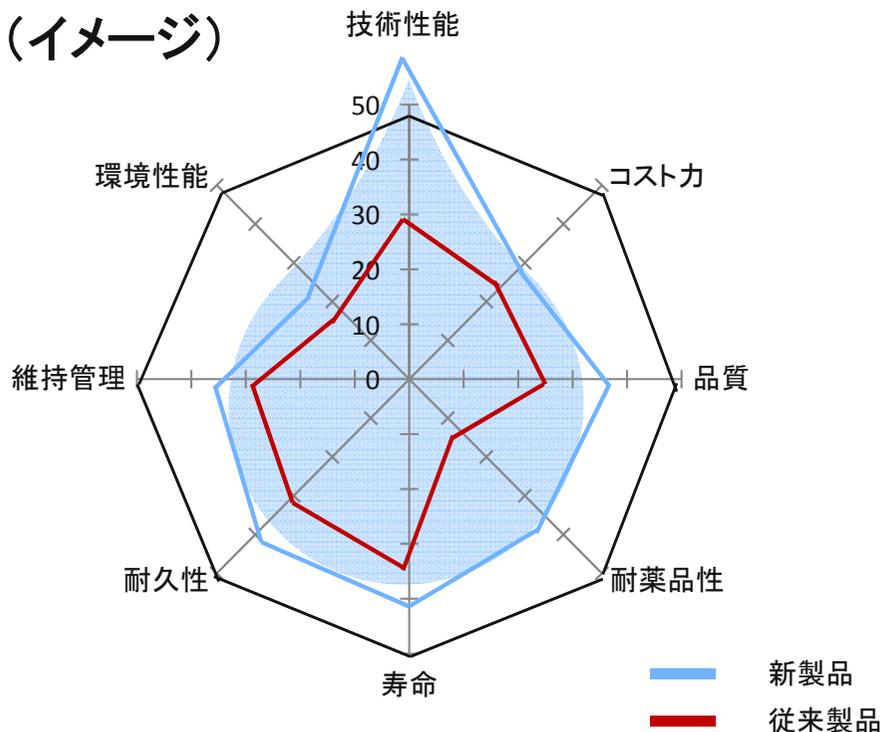
戦略開発投資(3)

ナンバーワン製品群の開発／新事業の開発

ナンバーワン製品(水滴型製品)群の開発

ずば抜けて環境性能に優れた製品、ライフサイクルコストが極めて低い製品など、特定の部分で優れた特長を有する製品の開発

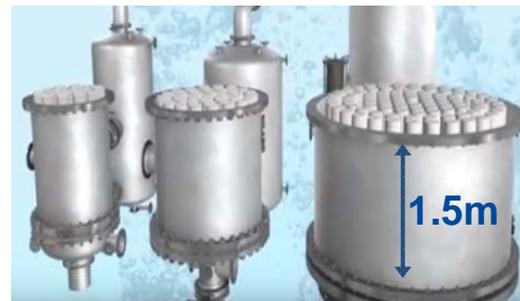
(イメージ)



新事業の開発

- ・AAS社、PWNT社製品の日本展開
- ・当社とAAS社の技術・ノウハウの融合による新製品の開発
- ・セラミック膜の新たな導入方式開発ほか

PWNT社製品 (CeraMac®システム)



AAS社製品 三次処理向け布ろ過装置 (クロスメディアフィルター)



働き方改革による付加価値の創造

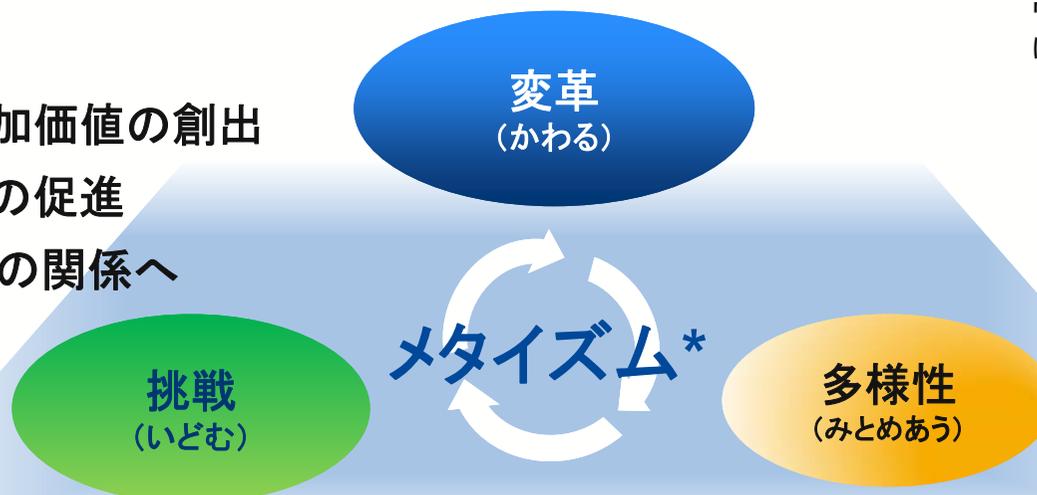
「時間」「場所」「年齢」の概念を撤廃し、一人ひとりの働き方に合わせた多様なワークスタイルを支える職場環境を実現する

- ✓ 基幹システム再構築とAI導入による業務の高効率化
- ✓ サテライトオフィスの順次開設(全国10箇所)
- ✓ 在宅勤務制度運用時間の拡大
- ✓ ノンコアタイムフレックス運用拡大
- ✓ 週休3日制の導入



慣習的なワークスタイルから脱却し、多様なワークスタイルを認め合う意識変革のきっかけづくりとしてサテライトスペースを設置

- * 創造的な仕事による付加価値の創出
- * 仕事を通じた自己成長の促進
- * 会社と個人のWin-Winの関係へ



*メタイズム: 自ら変革を生み出していくチャレンジ精神のある“個”をサポートし、多様な“個”が協働するダイバーシティを進めるという考え方を示したもの

EPC事業とO&M事業を**基盤分野**として強化、
PPP事業と海外事業を**成長分野**として拡大をはかる

プラントエンジニアリング事業セグメント

サービスソリューション事業セグメント

基盤分野

EPC事業

- ・受注済み案件（EPC・DB）の着実な工事進行
- ・新規案件（機械設備・電機設備）の受注促進
- ・IT活用などによるエンジニアリング体制の強化とコスト競争力の強化

O&M事業

- ・ストックを生かした事業の拡大
- ・維持管理ノウハウの活用による競争力の強化
- ・新サービスなどの開発

成長分野

海外事業

- ・米国子会社AAS社を核とした北米事業の拡大
- ・パートナー戦略による欧州事業の強化
- ・中長期での成長に向けたグローバル化の推進

PPP事業

- ・受注済み案件（PFI・DBO）の着実な工事進行
- ・地域戦略による事業範囲の拡大とマスメリット経営（スケールメリットを生かした経営）の実現
- ・中長期的な成長に向けた技術提案力とコンソーシアムマネジメント力の強化

- * 環境負荷の低減と事業を通じた環境貢献の推進
- * 環境教育、地域貢献活動の拡充
- * BCM^{*1}の取り組みとBCP^{*2}の実効性向上
- * 経営体制の一層の効率化と強化
- * 各ステークホルダーとの積極的対話の促進

*1 BCM: 事業継続マネジメント、*2 BCP: 事業継続計画

当社は 事業・CSR活動を通じて、SDGs*の目標達成に貢献していきます。

*2015年9月の国連サミットにおいて、地球規模の課題として採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核を成す17個の国際開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



財務基盤を維持しながら資本効率の向上を目指す

【ROE*目標】

(連結)	2018/3期 実績	2021/3期 目標
ROE	7.3%	10.0%以上

【配当方針】

安定成長と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保資金を確保しつつ、
経営状況に応じた株主への利益還元を継続して行う

(配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本とする)

* 自己資本当期純利益率 = 当期純利益 ÷ 自己資本

長期ビジョンの実現に向けて

当社グループは、水・環境インフラの持続に向けて、コンソーシアムのパートナーに信頼され、自治体に期待され、社会に求められる企業となること、そのために、地域と向き合い、地域の課題をワンストップで受け止め、人と技術と情報で課題解決に貢献し続ける水・環境事業運営会社となることを目指します



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様への期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見直しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 CSR推進室 広報IR部

Tel: 03-6853-7317 Fax: 03-6853-8709 E-mail: pr@metawater.co.jp

工事受注(10億円規模以上)

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	日野市クリーンセンタープラスチック類資源化施設建設工事	東京都	SS(資源環境)
	秋田県北地区広域汚泥資源化事業	秋田県	SS(PPP)
	新河岸水再生センター汚泥焼却炉脱水設備	東京都	PE
	森ヶ崎水再生センター再構築工事	東京都	PE
	相模原浄水場監視制御設備改良工事	神奈川県	PE
2Q	芝浦水再生センター東系高速ろ過設備工事	東京都	PE
3Q	大阪市海老江下水処理場改築更新事業	大阪府	SS(PPP)
	清瀬水再生センター汚泥焼却設備再構築工事	東京都	PE
	桂川右岸流域下水道 洛西浄化センター建設工事(焼却炉施設機械設備改築)	京都府	PE
	穴生中央監視制御設備更新電気計装工事	福岡県	PE
4Q	横尾浄水場監視制御システム更新工事	大分県	PE
	東村山浄水場受変電設備改良工事	東京都	PE
	(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備工事	東京都	PE
	大船渡浄化センター施設改良付包括運営事業	岩手県	SS(PPP)
	砂町水再生センター高速ろ過設備工事	東京都	PE
	中川流域処理場5号ほか汚泥脱水機械設備改築工事	埼玉県	PE

運転・維持管理 新規受託／業務開始

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	下呂市水道施設運転管理業務 [新規受託・業務開始]	岐阜県	SS
	下呂市水道施設運転管理業務 その2 [新規受託・業務開始]	岐阜県	SS
	中島浄化センター及び中島雨水ポンプ場外 運転管理業務 [業務開始(既受託分)]	静岡県	SS
	志登茂川浄化センター施設点検運転監視等業務 [業務開始(既受託分)]	三重県	SS
	中津市水道事業浄水施設等運転管理業務 [業務開始(既受託分)]	大分県	SS
3Q	川崎市下水道アセットマネジメント情報システム構築業務 [新規受託]	神奈川県	SS
	蔵前事業所 労働派遣 [新規受託・業務開始]	東京都	SS
	御殿場市・小山町広域行政組合 ごみ再資源化施設整備及び運営事業 [業務開始(既受託分)]	静岡県	SS(PPP)

受注(海外)

	案件名	国/地域	セグメント
3Q	中国 江蘇省 無錫市 錫澄浄水場向け酸素原料式高濃度オゾン発生システム	中国/江蘇省	PE